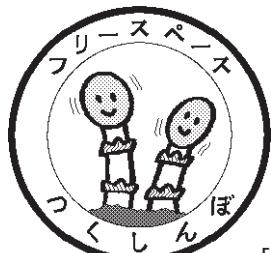


1977年12月3日第三種郵便物認可(毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行)
2003年4月29日発行SSKP増刊通刊2226号 つくつく通信No.63



SSKP

つくしんぼの
会報誌

つくつく通信

No.63

「つくしんぼ」はハンディのある子どもたちの放課後活動のスペースです

編集~「フリースペースつくしんぼ」 東京都町田市小川1511 TEL/FAX 042(796)8468

これからの つくしんぼ

子どもが歩き始める1歳の頃、公園をた
だがむしゃらに走るその子を、母は追つて
いました。ベンチでおしゃべりをしている
他のママたちを横目に見ながら。

この頃から、この母はず一つとママ友だ
ちが欲しかったのかもしれません。つくし
んぼという同じような境遇の母子のグルー
プが始まり、最初は市からの補助金はな
かったけれど、「やっとママ仲間をみつけ
た」って思えて、母はその子の問題行動に振
り回されることが少なくなりました。友だ
ちを作れない子どもたち、そして母たち。
でも「この場所なら作ることができるんだ」と
思えるようになったからです。

幼児期にはすみれ療育園というハンディ
のある子とその親をケアする公的な施設が
ある(町田市の場合)のに、小学校に上がつ
てしまふと何もないことに気づき、子ども
やその母親の交流の場となることを目指して
から、早いものでもう7年が過ぎようとして
います。最初はただ母子が集って、おしゃべりをしたり、食事を作って一緒に食
べたり、ただ何となく時を共有しているだけでした。それでも、子どもが多動であったり、上手におしゃべりできなかつたり、体が不自由であつたりして、公園のママたちと立ち話さえできず、お友だちを作れなかつ

た母子たちは、みんなと一緒にいられることだけで、とっても幸せでした。

しばらくすると地域の方たちが私たちの存在に気づいてくださり、暖かい応援の言葉をかけて頂けるようになりました。活動資金の調達の為のバザー準備を一緒にしてくれたり、品物を買いに来てくれたり、子どもたちとも関わってくださいました。

おかげさまでつくしんぼには広い庭があります。落ち葉の季節になると、焼いも会が出来ます。すると大人だけでなく地域の子どもたちも集ってきます。こうやって、学校の情報も、つくしんぼの子どもたちの言葉からは伝わらなくても、一緒に学校で過ごしているまわりの子どもたちから教えてもらえるようになりました。

危険がわからない、社会のルールがわからない、人とコミュニケーションをとることが難しい。そういう弱さを持った子どもたちは、誰かの保護の下でないと遊べないのです。一般のお子さんたちのように、自由に友だちと約束して、出かけて行くことが難しいのです。そうすると、遊び相手は母です。でも母は友だちにはなれない。

ある年、それまでのつくしんぼの活動を東京都と町田市に認めて頂き、補助金を受けられるようになりました。いつも、いつも母子一緒に活動



でしたが、職員さんを頼むことができるようになりました。すべての活動で母親と離れて過ごすことはできませんでしたが、子どもは少しずつ別の世界を持てるようになりました。それも学校以外の場所で、友だちに囲まれて。

そろそろつくしんぼは次のステップへ進む時が来ているのかもしれません。あの傾下を向いて過ごしていた母たちも遅くなりました。小さかった子どもたちですが、中学生に進学した子もいます。学齢期の子どもたちの放課後の場、その母たちの集いの場であることはもちろんですが、ハンディの有る無しにとらわれずにお互いに支え

あっていけるような環境を、私たちがこれから提案していけるかもしれない。みんな同等で、でも優しさをお互いが持てるようにな……。

本年度、社会福祉協議会より地域福祉活動費を配分して頂くことになりました。これは通常行っているハンディのある子の放課後活動の事業とは別物で、地域の方々に参加して頂く地域交流事業の為の配分です。

『つくしんボラ』というつくしんぼに関わってくださっているボランティアさんのグループがあります。この方々と一緒に、今年度は新イベントが企画できたらと、今フワフワとした期待の気持ちで一杯です。



今回のキッズタイムは、タカヒロ君です。 お母さんにお話していただきました。

この春2年生になった、自閉症児タカヒロです。

つくしんぼに着くと、まず職員さんに「お茶、下さい！」とお願いして、門のわきにある柿の木に登ります。そして、木の上でお茶を飲むと、彼のつくしんぼの時間が始まります。お茶を飲むのと、木登りとは、一緒じゃなくてもいいんじゃないかなとも思うのですが…。

彼の世界ゆえのこだわりが、今までにもいろいろありました。それは大体、毎日、しばらく続きます。

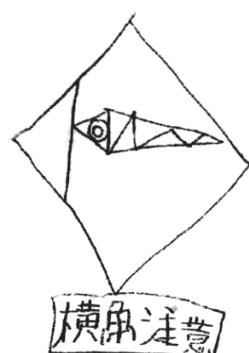
マーク好きになった時のこと。あちこちのお店の、あるプレートにひかれました。我が家にも欲しいと手作りし、昼は表側の『OPEN』、夜には裏返して『CLOSE』。何ヶ月か玄関ドアに付けることになりました。

それから、本人はケーキのつもり(！？)を作るというのもありました。材料も適當

なので食べられたものではないのですが、ただひたすら、毎日作って飾っておきたかったようです。

最近は、駄菓子やさんで売っているお菓子をせっせと集め、1日何回も数をかぞえてはニコニコしています。また、ラジオから流れる季節はずれの風鈴の音色を聞きながら、真っ暗なお風呂に入るのもお気に入りです。

こちらの世界では理解できない困る事もあるのですが、これが無くなってしまったら、タカヒロならしくなく淋しいような。『この先、タカヒロは、どんなこだわりを見つけてゆくのだろうか～！！』と、少々楽しみであります。





つくしんぼ保護者のみなさまへ

2年間という、短い間でしたが本当にあ
世話になりました。

今、振り返ってこの2年間という期間は、つ
くしんぼにとっての激動の時だったのでは
ないでしょうか? 私自身にとっても、勉強
になることが多い、実り多い時間を過ごさ
せていただいたように思います。

つくしんぼの親子分離が始まったのと同
時に、私のつくしんぼ生活が始まりました。
最初は、保護者の方の、職員だけに子どもを
預けることへの不安を解消するだけに、懸
命だったことを覚えています。その中で、意
見が合わず退会なさった方も何人もいらっしゃいました。退会なさる方がいるたびに、「仕方ない」とあきらめる気持ちと同時に、つくしんぼは子どもたちにとって、どうい
う場であるかを何度も自分に問い合わせてき
ました。

その中でこの1年強く思ってきたのが、
彼らにとってつくしんぼは「あたりまえ」の
場なのだということです。

私たちが幼い頃、学校から帰ってきて、大
人の介入しない遊びの場を通して成長した
のと同じく、彼らにとって彼らの成長に欠
かせない大切な仲間を作る場であり、遊び
からいろいろな知恵や経験を得たり、自然
の移り変わりを肌で感じ取ったりする大事
な場所であることを、私は何よりも子ども
達から教わりました。

そして、この2年間の中で、子どもたちか
ら教わった1番大きなことは「子どもは子
ども同士で影響し合い大きくなる」という
ことです。どんなに障害の重い子でも、何故
か友達のやっていることに興味があるよう
で、一緒にやらなくても、じっと耳をすませ
てきいていたり、みていたりするものです。
それは決して、大人が頑張っても与えるこ
とのできない、子ども同士の育ち合いの素
晴らしさです。

子育てには、その家庭、その家庭の考え方
があります。でも、もし保護者のみなさん
がつくしんぼに関わってくださるのであれば、
大きな目で、この子どもたちのかけがえの
ない育ちの場所を支えていただきたい。

塾や、教育の場のように目に見えた結果
でないかもしれない。でも、昨年度4月から
出会った12人のつくしんぼの子ども達は、
1年を通して、確実に仲間を意識し、弱い子
をたすけ、譲り合う心を身につけてきてい
ます。それは、人が生きるうえで何よりも大
切な部分ではないでしょうか?

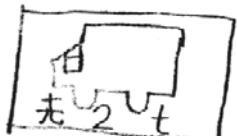
たかが2年間しかいなかつた身で、偉そ
うなことを長々と書きました。(スマセ
ン!)

でも、私自身もこの2年で大きく変わり
ました。第一に、人に優しくなれるようにな
った。これは、子ども達だけでなく、保護
者の方々、職員の方々の助け合う、優しい気
持ちから教わったところも多くあります。

いたらなかつた点も多々あると思います。
でも、大きな心で、いつも笑顔で支えてく
ださったみなさまに心から感謝申し上げます。

最後にこれからつくしんぼの子の成長、
そしてつくしんぼ全体の発展が今からう～
んと楽しみです!

この2年間、本當
にどうもありがとうございました。





つくつく通信の裏表紙



またしても新学期がやってきました。つくしんぼとして、早いものでもう7回目の4月となります。春はほんと、いろんなことがあります。通信の発行が遅れるのはもちろん、4人の子が退会して行き、4人の子が入会してきました。職員の交代もありました。まともな給料も払えないつくしんぼは、職員にもまた卒業して次のステップに進んで貰わなければならない、職場としてはとっても情けない場所なのです。

でもって、この春の一番のイベントは、補助金減額かな。(笑)たかが十数万が減っただけと行政側は言います。が、小さなグループにしてみると、これが大金なのです。まあ、つくしんぼとしては今年度は保護者負担金の大幅アップで乗り越えることにしましたが、来年また減額があっても、もう同じ手は使えません。

バザーをやっても百円ショップに負けてしまうし、なんとか儲けようとあれこれ考えていたところ……メンバーのYクン&M

チヤンのお父サンが、倉庫と自動販売機の隙間に無人野菜スタンドを作ってくれました。まだつくしんぼの畑には何の作物もできていません。



でも、暖かくなれば、ここにきっと何かしらの野菜が並ぶと思います。そしたら、買って下さい。あ、適当な箱を作りますので、お金は必ず入れて下さい。(笑)

▲ささえる会 ご入会・ご更新ありがとうございました
曾輪様、鈴木様、桐山様、志岐様、山下様、木村様、田中様、真壁様
福井様、小林様、高尾様、林様、川本様、三箇山様、青木様、阪本様、
小川様、中西様、長谷様、安西様、鈴木様、法政大学現代福祉学部ぴゅ
あの皆様、サイドバイサイド様
(2月～3月)

つくしんぼをささえる会 ご入会・ご更新のお願い

フリースペースつくしんぼはハンディをもつ子ども達の放課後活動の場として活動しています。96年に開所し、現在は補助金を受けているが、運営面で苦しいのが現状です。

よろしかったら「ささえる会」の会員になって頂けませんでしょうか。年会費2000円(一口)をお願いしております。

会員の皆様には、この会報誌「つくつく通信」を送付させて頂きます。よろしくお願いできましたら幸いです。

郵便振替口座番号
00120-7-168283
加入者口座名称
フリースペースつくしんぼ

